

# 作業療法士連盟ニュース

発行 ● 大分県作業療法士連盟



## 衆議院議員選挙、吉良州司氏 当選!!



開票見守り会にて

当連盟は、吉良州司氏(大分一区)と政策協定を結び、応援しました。  
結果は見事当選！国政での活躍を期待しています。

### 大分県作業療法士連盟の実績

- ①政策協定の締結・推薦状の交付
- ②吉良州司氏出陣式への参加
- ③ネット選挙対応（フェイスブック、ホームページ作成）
- ④5か所の個人演説会への参加
- ⑤大分県作業療法協会ビルにて個人演説会開催
- ⑥会員への電話連絡の実施
- ⑦開票見守り会への参加



大分県作業療法協会ビルにて



推薦状の交付

平成26年12月3日大分県作業療法協会ビルにて「個人演説会」を開催しました。参集した作業療法士は50名を超え立ち見も出る状況でした。演説では、「将来世代へ投資し、地方を自立させる政策が重要」「元気な大分をつくっていくことが大切」と熱く語られました。

## 目次



P2)インタビュー!!  
「福祉(発達分野)の現場にも  
作業療法士の視点を!!」

P3)議員との対話会議  
「えっ!策定委員会に  
呼ばれていないんですか?」



P4)国政報告会  
「リハ専門職の最大活用」  
その他  
・幹事からの一言・お知らせ

## 山口かずゆき氏『国政報告会』

平成26年9月9日

山口かずゆき参議院議員の国政報告会が、ホルトホールで開催されました。作業療法士・理学療法士・言語聴覚士計130名が参加しました。

報告会は、山口議員が在籍していた財政金融委員会と現在在籍中の厚生労働委員会についてです。『元気な高齢者を増やす』などの社会貢献を行うため、『リハ職の最大活用』を目標に『制度作り』『教育改革：4年制教育化』に取り組んでいるとのこと。そのためには、『**1人1人のリハ専門職が結果を出すことが大切だ!**』と強調していました。

山口議員の更なる活躍を期待しています。

### 幹事からのコメント!!



### 『コミュニケーション(意見交換)が、互いの理解と協力を生む!』

私が病院で働き始めた当初、お願いを聞いてくれる他職種さんは少ない状態でした。しかし、『他職種に頼まれた事をしっかりと行い、コミュニケーションを取っていく』、これを継続していくことで、お互いがお互いのことを理解し、協力できることを経験しました。大分県作業療法協会・作業療法士連盟が現在活動していることも、このことに似ているのではないかと感じます。『議員や行政の方々、社会の皆様は作業療法(士)のことを知ってもらい、一人ひとりの作業療法士が社会に貢献するように努力する』、これを継続することが、より良い社会を作ることに、作業療法(士)の発展にもつながるのではないのでしょうか。

当連盟は、活動を開始し3年が経ちました。徐々につながりのある議員が増え、選挙の際は応援を依頼されることが増えてきました。これは、活動を続けてきたこと・会員の皆様協力していただけたことの大きな成果だと感じています。これからも皆で協力し、より良い社会作りにも貢献していきましょう。



大分県作業療法士連盟  
幹事 鳥越 克志

### 連盟からのお知らせ

#### 1. 『総会・研修会』のお知らせ

平成27年2月22日 10:00開始

大分県作業療法士連盟総会

研修会:『作業療法士の有効活用に関する  
協定への取り組みを問う』

講師:参議院議員 PT

山口かずゆき氏

以前応援した山口氏を  
招き、日本OT連盟と交わ  
した協定についての活動  
報告を行います。

ぜひ参加して下さい。



#### 2. 今年は『Tシャツ』!!


毎年好評の『グッズ販売』  
ですが、第3弾として、『Tシャ  
ツ』を作りました。かわいいデ  
ザインとなっていますので、  
ぜひお買い求めください。




#### 3. 連盟のホームページについて


現在、諸事情により閲覧できませんが、復旧  
作業を行っておりますのでお待ちください。

### 「私たちは大分県作業療法士連盟の活動を応援しています!」

 **株式会社ライフリー**  
デイサービス楽 大分市毛井553-1  
TEL:097-529-9025

 **いまみや補装具サービス**  
大分市花津留1-2-18 TEL:097-574-8432

**株式会社オフィスジャパン**  
大分営業所 大分市大字森1207番地の8  
TEL:097-520-5208

 **鶴崎海陸運輸株式会社**  
大分市大字三佐1000  
TEL:097-521-6115

**A/Z** 株式会社有園製作所 大分営業所  
大分市王子西町13-12  
TEL 097-514-1010  
**Arizono Bespoke**

 **有限会社大分タキ**  
別府市大字内籠1393(太陽の家内)  
TEL 0977-67-6538

**Sasaki Photo studio** **佐々木写真館**  
豊後大野市三重町赤嶺 1186-70 TEL 0974-22-0046

事務局:〒870-0124 大分市大字毛井553-1  
(デイサービスセンター楽内)  
TEL:097-529-9025 FAX:097-520-1765  
<http://www9.ocn.ne.jp/~oitaot/>

## 今回、みんなの広場とんとの田中理事からもお話を伺うことが出来ました。



理事  
社会福祉士  
発達障がい者支援専門員  
田中 一旭氏

### たくさんの作業療法士さんが地域に出 てくれるといいですね。

医療で求められる専門性が、社会・地域でも求められることを作業療法士さん自身にも気づいてほしいです。集団の中で落ち着かなかったりと、親の養育力のみでは、生活力が身につかない子が沢山います。そういう所で**作業療法士がもっている「人に関わる力」「人の力を引き出すノウハウ」**を、保育士等と協力して介入することが求められると思います。

もっとたくさんの作業療法士さんが地域に出ることを願います。ただデメリットもあると思います。地域に出るという事は働き方に変化が生じます。リハ職だからと『働き方』に固執しすぎると足枷になると思います。

### 政治連盟として働き かけてみては？

平成24年から特別支援加算がつきました。リハ職がいることが評価されたということですが、加算額はとても低いです。新しい制度を作ることは難しいことですが、今ある制度を充実させるような働きかけは政治連盟としても動きやすいのではないのでしょうか。現在、子どもに関する分野は国も充実させています。リハの職域拡大という視点でなく、『療育に必要』という視点で働きかけてみてはどうでしょうか。



### まとめ

インタビューを通して、作業療法士がこのような場で働く機会が増えれば、「障がいを持っている可能性がある子」を早期に且つ適切に地域で支援されていく場面が格段に広がると感じました。保育の場にリハ職は求められています。ただ、我々作業療法士は地域で働くにあたり、『リハビリ』という働き方に囚われ、自分の業務を狭めるのではなく、全体の活動の中に作業療法士の視点を提供していくという考え方の転換が必要になると感じました。

当連盟では、石田さんの様なまだまだ制度として作業療法士の設置基準が明記されていない分野等で頑張っている作業療法士の皆さんを応援しています。日頃の臨床で感じている事や「こうなったら良いのに」と思う事を「声」に出して政治に働きかけて行きましょう。



## 《活動報告》議員さんとの対話会議



堀 嘉徳氏  
大分市議会議員

### 『大分市に元気な高齢者を!!』堀議員との対話会議 平成26年5月21日

『地域ケア会議への取り組み』についての質問・意見交換を主に行いました。介護にかかる財政的負担について報告してもらおうと、「市の行政的判断では、『サービスをすれば費用がかかり、高齢者が増えればさらに費用が必要となるのは必然』との事で自立支援の発想は低い状況」「ケア会議に対しても、積極的な取り組みではないと感じています。」と現状を報告してもらいました。連盟幹事や参加者から、介護保険の基本理念（自立支援）や他市のケア会議の状況及び介護認定率の変動などを情報伝達するとともに、予防の重要性や適切なサービスが入ることにより『元気な高齢者』は必ず増えるという実践報告をしました。堀氏は、我々専門職の考えを興味深く聞き「今後も行政の取り組みを調査し意見します。」と言ってくれました。議会などに反映される事を願います。

### 『えっ! 呼ばれていないんですか!!』馬場議員との対話会議 平成26年9月10日

馬場議員とは、主に『認知症高齢者への対策』『地域包括ケアシステム』『保育・女性の就労』『大人の発達障害者支援』について意見交換を行いました。

「予防には作業療法士に関してほしい」という思いが強く、「地域のサロンに参加しているボランティアの方を集め作業療法士が専門的視点で指導する事で、より地域で健康対策がなされるのでは？」との自分の考えを話していただきました。

話の中で、「行政の策定委員会などの会議に呼ばれているんでしょう?」「えっ、あんまり呼ばれていないのですか?」と現状に驚かれる場面もありました。「作業療法士さんは専門職として委員になってもらったほうが良いですよね。」と理解を示してもらえる場面も多かったです。「作業療法士の活躍を期待しています。」とエールをいただきました。



馬場 林氏  
大分県議会議員

## 《インタビュー企画》



# 『福祉(小児分野)の現場にも 作業療法士の視点を!!』

今回、こども発達支援教室すもも・放課後デイサービスくるみ(放課後等デイサービス)で働いている石田さん(作業療法士)にインタビューをしました。設置基準上、作業療法士が必置ではない事業所で、作業療法士の専門性を活かし働く「やりがい」について語っていただきました。

石田 志保さん：作業療法士(藤華医療技術専門学校卒)  
『みんなの広場とんとん』で働きだして2年。指導員として作業療法の視点を織り交ぜながら業務を行なっています。

### 施設紹介

NPO法人みんなの広場とんとん こども発達支援教室すもも



NPO法人みんなの広場とんとん

とんとんでは、地域で暮らしている障がいのある子もない子も、どんな子も利用することができ、子育てに頑張っている誰もがホッとできる広場であり続けたいと願っています。  
ホームページより

### 作業療法士の視点を生かしています。

当施設では、自閉症スペクトラムなど発達障がいの診断を受けている子もいらっしゃいますが、乳幼児健診で、保健師さんに勧められて来る子が多いです。当施設が初めての療育の場となっています。必要に応じ医療機関を勧める場合もあります。

私は保育士さんと同様に、朝の準備から帰りの会まで施設内で行う全ての活動に参加しています。現場に入っているからこそ、その場で介入でき、気になる子の特徴などをほかの職員に伝えたり、話し合ったりしています。

作業療法士として、プログラムに意見を言う事もあります。「遊びの中での目的」や「その動作が持っている意味について」などです。

親御さんには、発達チェックの結果をお伝えしています。合わせて、家でできることや、ここでできていることを伝えています。お子さんの得意・不得意が分かりますし、親御さんへの理解の促しになっていると感じます。

全体的に『作業療法士としての業務』というわけではなく、全体の業務の中に入り、その中で作業療法士の視点を織り交ぜていく感覚です。

病院で働いていた時には作業療法の「枠組み」が明確でした。今は『これをしたら作業療法』というものはありません。今はあまり作業療法士としてということに固執せず、自分のできる事を行っています。

### 福祉の制度は整ってきていますが、まだ不十分だと思います。

この分野で働いている作業療法士は少ないですが、3年ほど前から『特別支援加算』が作られました。セラピストが支援計画を立て訓練を行うと加算がつくようになりました。児童発達支援事業においてセラピストの必要性が認められ制度化されたものです。当施設でも特別支援加算を算定しています。

当施設は、様々な職種がいることでのメリットを考え、加算がつく以前から作業療法士を正職員として雇っています。制度が充実すると、各地域の施設でセラピストによるサービスが充実すると思います。

### 作業療法士が医療機関外でもっと活躍できると良いと思います。

お子さんに対しては、早期から支援があると良いと感じています。親御さんの中には医療機関を受診することに抵抗を感じる方もいます。そこで二の足を踏んで療育の機会を逃すのは、もったいないです。

子どもたちの日常の暮らしの中に作業療法士の知識・視点を生かせるように医療機関外での活動が必要になっていると思います。

